

## 2012 アートマイル 報告書

日本学校名 [ 横浜市立文庫小学校 ] 担当教諭名 [ 鈴木 恭子 ] ( 6年1・2・3組 108名 )  
 交流相手国 [ ウガンダ ]  
 海外学校名 [ Namilyango College ] 担当教諭名 [ Sembiro Mike ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

実施教科・時間数 アートマイルに関連した時間 (総合は外国語活動、環境 など内容が分かるように 必要に応じて行を追加して ください)	教 科	単 元 名	時間数
	外国語活動	自己紹介をしよう 手紙を書こう	4
	総合(国際理解)	アフリカの真珠 ウガンダの秘密 ～ウガンダの生活や文化を伝えよう～	20
	図工	「We are friends」 文庫の町とウガンダを絵でつなごう	4

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	つながり
絵に込めたメッセージ	文庫小のある町とNamilyango Collegeの町をつながり、日本とウガンダをつながり、過去と未来をつながり表現しました。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
共に絵を描くために相手の国のことを調べる活動を通して、今まで意識して来なかったウガンダという国の生活や人々の考えに触れることができた。また、ウガンダの友達との交流から、自分たちの町や自分たちの歴史を見直し、自分たちの文化について考えることができた。	学年全員で取り組んだために、一人ひとりの活動が少なくなり、主体的にかかわることが難しい児童もいた。

### ■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
ウガンダについて調べたことを学習発表会で発表し、遊びや楽器の体験、ウガンダの料理の試食なども行って、ウガンダの暮らしや文化について多くの人に紹介をした。卒業式前の最後の授業参観で、これまでの活動の報告をし、卒業式には完成した壁画を会場に飾って皆さんに見ていただくことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウガンダとの交流を通して、外国について知ったり、自国について考えたりするよい機会となった。</li> <li>・子どもなりの視点でウガンダの様々な面に目を向けて調べ発表したことがよかった。</li> <li>・半分ずつ描いた絵だが、うまく一つにつながっていて素晴らしい。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	9月	活動の流れの紹介 計画 実行委員会の立ち上げ	とても楽しみな半面、どうやってコミュニケーションをとればよいのか不安に思う児童も多かった。 ウガンダについての知識はほとんどなし。	総合
情報収集	10月 11月	自己紹介カードの交換 元青年海外協力隊の方のお話 調べ学習 調理実習 学習発表会での発表	好きな遊びや教科などについて知らせたいという意欲をもち、AETの助けを借りてカード作りをした。 一人ひとりが調べたいことを決めて、ウガンダについての情報を集め、「アフリカの真珠 ウガンダの秘密」と題した発表会を開いた。	外国語活動 総合 家庭科
テーマ検討	10月	実行委員会での話し合い 相手校との相談	「自分たちの学校町にことを伝えたい」 「ウガンダと日本が仲良くなれるような絵を描きたい」という思いで、下絵を考えた。	総合 課外
制作	10月 11月	実行委員による下絵の決定 下絵を描く(実行委員) 色をつける(全員)	108人で少しずつ分担をし、丁寧に色をつけた。	課外 図工
鑑賞	3月	体育館に掲示して、全員で鑑賞 記念撮影 卒業式での紹介	半分ずつ描いたのに、1枚の絵になっていて驚き、感動を分かち合うことができた。	総合

■学習目標と成果はどうでしょうか？

つきたい力・指導目標	重視	先生の手応え	そう感じた場面・理由
自文化の理解	1	5・④・3・2・1	身近にある歴史的建造物に目を向け、自分の国の歴史について考えることができた。
異文化の理解	2	5・④・3・2・1	青年海外協力隊員の方から、ウガンダの小学生の生活について聞き、自分たちと比較してとらえることができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	5	5・4・③・2・1	自己紹介カード作りや、学習発表会での発表の準備を通して、伝えたいことを伝えるための方法を学んだ。
情報活用能力 (情報収集・発信)	4	5・④・3・2・1	ウガンダの生活や文化について、個々のテーマを設定して調べ発表することができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	3	5・4・③・2・1	絵を描くこと以外の交流の時間を確保することが難しく、相手との1対1の関係作りはやや不十分であった。
協働する力 (役割分担・協力)		5・④・3・2・1	108人での取り組みを進めるために、実行委員を中心として協力分担して活動できた。
学習を追究する意欲		5・4・③・2・1	絵を描くことには粘り強く取り組んだが、交流の面で一人一人の成長が十分ではなかった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)		⑤・4・3・2・1	身近にある史跡や自然を自分なりによくとらえ、ウガンダに伝えたいという願いを込めて構図を決めることができた。
作品を鑑賞する力		5・4・③・2・1	作品が返ってきたのが卒業式の4日前だったために、鑑賞したことについて十分な話し合いや記録の時間が取れなかった。